約束を待ち望んだ人々　　使徒１章1～14節

今年のイースターは４月４日（日）でした。それから復活されたイエス様は40日間地上を歩まれ、ご自身が生きておられることを証されました。そして40日目、今年では５月13日（木）の日に、主は昇天なさいました。主イエス様の昇天された場所はオリーブ山でした。その場所は、エルサレムの東（12節）「安息日に歩くことが許される道のり（約900m位）のところにあった。」のです。

今朝は、今年で言うならば、昇天された５月13日（木）からペンテコステの日５月23日（日）までの10日間の出来事を学びます。

――― 聖天される前に、主が話された事 ―――

さて、イエス様は、この世を去られる時に、弟子たちに次の様に話されました。

（4、5節）「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。・・あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

では、聖霊をいただくと、どうなるのでしょうか？

（8節）「・・聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤと、サマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

イエス様が、今の私たちクリスチャンに期待しておられる事、それは救い主イエス様のことを、多くの人々の前で証しする事です。イエス様は、「自分の力で証せよ」とは、いわれませんでした。むしろ、「私が共にいるから、出て行きなさい」と語られました。そして、その為に「聖霊の力に満たしてあげるから」と約束して下さいました。

弟子たちは、待っていました。イエス様から言われた様に、

①　エルサレムで　②　共に、集まって、　③祈りつつ　待ちました。

実は、彼らにはまだ、力がなかったのでした。

――― 聖霊の力、助けをいただく ―――

（マタイ11:28～30節）「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

人には２つの重荷があります。

・一つは、　重い重荷です。　宿命、運命、ハンディ、病気、生きるという事、等々。

・二つ目は、軽い重荷です。　働き、奉仕、責任、等々。（主の使命の中に生きる！）

イエス様は、あなたの重荷を「軽くしてあげる、ワクワクさせてあげる」といっておられ

ます。神の手は、グローブ、ミットのようです。どんなに速い球も受けてしまいます。素手でしたら、今まで絶対に取れなかった球も、気持ちよくキャッチです。もう楽しくて仕方ありません。神様はどんな時も、あなたのその問題にあったグローブを用意しておられます。すると、可能な世界が限りなく広がります。大胆に助けていただきましょう。そして「たましいに安らぎをいただきましょう」あなたの人生には不可能はありません。だから、イエス様は繰り返し呼びかけておられます。グローブを上げるから「わたしのもとに来なさい。」

――― 待っていた人々 ―――

（12～14 節、読む）さて、この所には、エルサレムの、彼らが宿泊していた、家の屋上の間で、集まっていた 120 名程の人々のことが書かれています。どの様な人々なのでしょう。

・第 1 は、イスカリオテ・ユダを除いた、**11 人の弟子たち**でした。

一度は、イエス様を捨てて、ちりぢり、バラバラになっていた者たちでした。しかし、復活されたイエス様にお会いしてから、主のみことばの下に、もう一度、集められたのでした。それにしても、あんなに臆病者であり、疑い深い者たちでしたが、彼らの信仰は復活したのでした。私たちも同じです。失敗しても、何回でもやり直すことができるのですね。

・第 2 は、**婦人たち**でした。

でも当時は、世にあっては何の力もない、弱い者たちでした。しかし心から、イエス様を愛している、婦人たちでした。

しかしです。考えてみると、教会の始まりは、いつも女性たちからの様ですね。

実は、「私は弱い」と、自覚している人ほど強いのです。パウロも言っています。「・・私が弱いときこそ、私は強いからです。」婦人たちが祈る教会は強いのです。婦人たちは、まさに縁の下の力持ちです。

・第 3 は、**イエス様の兄弟たち**でした。

伝道する時に、ある意味で一番難しいのは、身内の者ではないでしょうか？イエス様の家族、兄弟たちも同様です。そして、幼（おさな）なじみの郷里の人々も同じでした。今まで何回も、イエス様の知恵と奇跡を目の当たりに見ていても「この人は大工の息子ではないか。・・」というだけで、決して信じなかったのです。

（マタイ 13:54～57 節）「『この人は、こんな知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。この人は大工の息子ではないか。母はマリアといい、弟たちはヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。妹たちもみな私たちと一緒にいるではないか。この人はこれらのものをみな、どこから得たのだろう。』こうして彼らはイエスにつまずいた。」身内の者も、郷里の人々も皆、不信仰でした。しかし、その様な彼らですが、今は違います。イエス様のよみがえりの後に、弟子たちの仲間に加わっています。

――― １２０名の者たちとは ―――

ある意味で、ここに集っている 120 名は、以前はみんな臆病者、弱い者、不信仰者でした。しかし、そんな彼らが、今一つ所に集まっています。そして、10 日間もの間、イエス様のみことばを心から信じて、「・・いつも心を一つにして祈っていた」のでした。

そして、待ちました。 ① みことばに従って、待ちました。
② 共に集まって、 待ちました。
③ 祈りつつ、 待ちました。

――― リバイバルを起こすもの ―――

2 章に、書かれている大リバイバル、ペンテコステそして、**教会の誕生は、実にこうした祈りの結果**でした。いつの世もそうですが、大きなリバイバルは、祈りが、その先駆けとなっています。

ある方が言いました。「皆さんが人の前に力がないのは神様の前に力がないからです。

また皆さんが、世を、人を動かすことができないのは、まず、神様を動かしてないからです。真実な祈りは、私たちが、神様の戦（いくさ）を戦うための一番大切な戦闘準備であることを知らなくてはなりません」。

たとえ、私たちが臆病者であっても、力のない者であっても、信仰が弱くても、イエス様のみことばを信じて、祈るならば、互いが共に祈り合うならば、神様が動いてくださいます。

そして、人の業ではなく神様の業が起こされるのです。それにしても神様が、こんな私を通して働いてくださるなんて何と素晴らしいことでしょう。あのペンテコステの時の神様は、今も私たちと共におられる同じ神様なのです。

ですから私たちも、あの弟子たちが、勝利した屋上の間での 10 日間の祈りに勝利したいですね。

（14 節）「彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。」

最後に、もう一つ 14 節から学びます。それは、120 名の殆どは女性たちであったということです。弟子たちは 11 人（この時点では）、イエス様の兄弟たちは 10 数名でしょう。と言う事は、80～90 名は、全部、婦人です。婦人や、母親の祈りの強さを改めて感じます。

先程も言いましたが、教会の縁の下の力となり又、家庭をしっかりと支えているのは母の祈り、愛、信仰です。今日、そのことをしっかりと覚え、感謝しましょう。教会や家庭を守るのはお金の力ではありません、祈りの力です。その事を婦人たちから教わる事が出来る、教会、そして家庭でありたいですね。

今年の、ペンテコステは 7 日後に近づいて来ています。神の時は近いのです。

私たち、約束を待ち望む人々の中の一人にさせていただきましょう。